

平成29年度  
学校評価報告書

四天王寺学園高等学校  
四天王寺学園中学校  
学校評価検討委員会

## 目次

1. はじめに（校長）	-----	2
2. 学園建学の精神と教育理念	-----	4
3. 自己評価集計結果分析	-----	5
4. 学校関係者評価	-----	17

## はじめに

四天王寺学園高等学校  
四天王寺学園中学校  
校長 檀上 慎二

本校では授業をはじめとした種々の教育活動に真摯に取り組んでいるところですが、生徒がより良い教育を受けるためには、私たちの教育活動を客観的に評価し、検証することがまず必要です。その評価・検証の上に立ち、教育活動を向上させるための支援・改善が浮かび上がり、支援・改善を行うことで本校の教育水準の向上を図ることができるからです。

また、学校運営の質に対する保護者の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たすとともに、学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進が図られることが期待されます。

これらのことから、学校の教育活動やその他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く公表していくことが求められます。

学校評価は、以下の3つを目的として実施するものであり、これにより生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指すための取り組みです。

- ① 各学校が、自らの教育活動やその他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民などから理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力により学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### \* 学校評価の定義

- (1) 各学校の教職員が行う評価【自己評価】
- (2) 保護者や地域住民などの学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- (3) 学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家等を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況もふまえて、教育活動やその他の学校運営の状況について、専門的視点から行う評価【第三者評価】

この定義に基づいて、本校の学校評価とは具体的には

- (1) Plan (目標設定) : 前年度の評価活動の反省を踏まえた、重点目標の設定
- (2) Do (実行) : 重点目標の具体的な取り組みおよびその内容
- (3) Check (点検) : 学校教育自己診断の結果と分析
- (4) Action (行動) : 評価結果の検証と次年度目標への反映

のPDCAサイクルに基づいて教育活動を展開していくことです。これらを実践する事によって、「学校評価ガイドライン」に掲げられている上記の目的を達成していきます。

本校は平成26年度4月に学校評価検討委員会を設置し、「学校教育法」及び「学校教育法施行細則」に基づき、学校評価として、自己評価と学校関係者評価を実施いたしております。平成29年度は、平成29年11月から12月にかけて行った生徒対象の授業評価アンケートと教員対象の自己評価を分析し、更にこの自己評価を後援会の方にも検討していただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「学校関係者評価」を真摯に受け止め、建学の祖、聖徳太子の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

## 学園建学の精神と教育理念

本学園は、大正11年（1922年）、聖徳太子1300年御忌の記念事業の一環として、世の平和と人々の繁栄を願い、聖徳太子の「和を以て貴しとなす」（十七条憲法第一条）という「和」のご精神を礎とし、人間教育を目的として設立され、

【1】 一切衆生悉有仏性→おおよそ生あるものに対するものを慈しむ心

【2】 人皆宇宙法界の縁に抛る→あらゆるものに対する感謝の心

など、仏の心を自然に体得出来るように、教科学習・学校行事・生徒会活動などが、学校生活の中に工夫され編成されている。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩薩」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育理念である。

学園生徒・教職員の日々の活動は次のとおりである。

(1) 朝な夕なガレリアにおいて、お釈迦様誕生のレリーフに向かって礼拝する。

(2) 仏教聖歌を斉唱する。

(3) 『般若心経』を読誦する。

(4) 学園訓を斉唱する。

一つ 和を以て貴しとなす

一つ 四恩に報いよ

四恩とは 国の恩 父母の恩 世間の恩 仏の恩なり

一つ 誠実を旨とせよ

一つ 礼儀を正しくせよ

一つ 健康を重んぜよ

(5) 豊かな知識が、豊かな心に繋がるよう仏教教育を取り入れている。

(6) 将来の高等教育に向けて、豊富な中等教育のカリキュラム・シラバスを編成している。

(7) 「人と人との和」「人と物との和」「人と仕事の和」など、その実践に教科活動はもちろん、学校行事・クラブ活動に積極的に取り組んでいる。

以上の学園の教育方針により、生徒本人の資質・能力を伸張し、円満でかつ心優しい「慈悲共生」の実践できる信念ある人間の育成を目指している。

**\*学校評価の取り組みとして、建学の精神の具現化はもとより、学園訓が掲げる真摯な教育方針の徹底を目標とする。**

## 平成29年度自己評価集計結果分析

### ➤ 本学園教育方針

- 日本のリーダーとして活躍できる強い精神力の育成
- 規律正しく、厳しさを備えた人格の形成
- 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力の養成

### ➤ 今年度重点目標 【PLAN】

本学園の教育活動において前項の建学の精神と教育理念、および上記の教育方針で掲げた事項を実現することとは、即ち、「高い知性と、丈夫な心身を備え、人との和を尊重し、社会の発展に貢献できる人物の育成」に他ならない。

同時に、この人物像は、大人が、そして社会が、未来を担う子どもたちに望む姿でもある。そのような希望に沿える教育活動を行っていくべく、今年度は次のA～Eの重点目標を掲げることとした。

- A (人間教育・仏教教育)：人としての誠実な在り方の追求と周囲との信頼関係の構築
- B (社会適応能力の育成)：生徒一人ひとりの創造力の育成と集団生活の中で協力する姿勢を醸成するための教育活動の推進
- C (生活指導)：挨拶の励行・校内の美化・規律正しい生活習慣の確立
- D (学習指導・進路指導)：生徒の夢・希望を実現するための進路指導
- E (広報活動・保護者対応)：広く教育活動を公開し、保護者の信頼と期待に応える学校づくり

### ➤ 評価アンケート実施要領

今年度重点目標A～Eの達成度を検証するために、各重点目標達成に通じる実行項目について、以下のような形で評価アンケートを実施した。

尚、経年比較をして、より良い方向へ進んでいることを確認するため、アンケート質問紙は前年度とほぼ同じものを用いている。故に、次頁以降の結果報告においては、質問紙のままではなく、各重点目標との関係性から実行項目を整理し、併せてその評価結果を掲載することとした。そのため、同じ実行項目が複数回出てくることがある。

- (1) 実施対象： 回答教員数（24名）  
回答生徒数（239名）
- (2) 実施形態： 質問紙法
- (3) 評価： 1（あてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（あてはまらない）の4段階
- (4) 評価点の算出式： $5 \times (\text{「あてはまる」の}\%) + 4 \times (\text{「ややあてはまる」の}\%) + 2 \times (\text{「あまりあてはまらない」の}\%) + 1 \times (\text{「あてはまらない」の}\%)$

➤ 重点目標毎の実行項目・集計結果・分析

アンケート結果として、各実行項目に対する評価、結果分析、次年度以降への反映・対策を下表にて示す。尚、実行項目の欄の「★」は、生徒回答分であることを示す。

1) 重点目標Aに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 <b>【DO】</b>	評価点 29年度	評価点 28年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	<b>4.6</b>	4.6	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%
2	人権教育に関して生徒の意識を高めるように指導している。	<b>4.4</b>	4.3	50.0%	45.8%	4.2%	0.0%
3	相手を思いやる態度を育て、相互の信頼を深めることで良好な人間関係を築くよう指導している。	<b>4.6</b>	4.6	73.9%	21.7%	4.3%	0.0%
4	アンケートや個別面談を通して、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応をおこなっている。	<b>4.5</b>	4.5	62.5%	29.2%	8.3%	0.0%

2) 重点目標Bに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 <b>【DO】</b>	評価点 29年度	評価点 28年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	<b>4.6</b>	4.6	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%
2	会議や委員会などに積極的に参加している。	<b>4.6</b>	4.8	70.8%	25.0%	4.2%	0.0%
3	生徒が、自ら計画を立て、行動できるように指導している。	<b>4.3</b>	4.3	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%
4	目の前にいる一人ひとりの生徒に向き合い、支援している。	<b>4.5</b>	4.5	70.8%	20.8%	8.3%	0.0%
5	同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努めている。	<b>4.7</b>	4.6	75.0%	20.8%	4.2%	0.0%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	評価点が、年度ごとで0.1ポイントずつ上昇し続けている。	学校での人権教育は社会人育成の場として大変重要であり、学校生活のあらゆる場面において人権尊重の姿勢を育成していきたい。
3	昨年度と同じ高い評価点を維持し続けている。	和の精神に基づき、社会生活を送る上で不可欠な思いやりや信頼といった心の教育ができています。今後も更に続けていきたい。
4	昨年度と同じ高い評価点を維持し続けている。評価「1」の割合も増加している。	生徒との情報共有を行うことで、生徒にとって学校が良き学びの場となるように、今後もいじめ問題の防止・根絶に向けて取り組んでいきたい。

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を進めている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	95%以上の教員が、会議や委員会に積極的な参加をし、高い評価点を維持している。	次年度以降もこの状況を失うことなく、建設的な姿勢をもって会議や委員会に臨みたい。
3	昨年度と同じ評価点を維持し、評価「1」の割合が増加している。生徒の自立心・主体性の育成に寄与できていると感じている。	生徒の自立心・主体性の育成は、最も重要な課題の1つである。1つの取り組みとして、手帳や電子機器を利用することを今後も続けていきたい。
4	昨年度と同様、高い評価点を維持し続けている。毎年、評価点が上昇している。	クラス担任による個人面談や、放課後学習において生徒との交流を一層大切にし、集団ともに一人ひとりへの対応を引き続き、積極的に取り組みたい。
5	95%以上の教員が、教員間での連携に努めようと努力している。	教員間の連携を更に密にし、組織的な教育活動を行い、生徒のより良い成長に寄与していきたい。

6	文化祭・体育祭・宿泊学習などの行事を通して、生徒の学校生活を充実させている。	4.7	4.4	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
7	授業にアクティブ・ラーニングやICT(情報通信技術)を活用している。(今年度設定した新規の項目)	4.0		45.8%	37.5%	8.3%	8.3%
8	★予習をしてから授業に臨んでいる。	3.2	3.6	31.2%	26.4%	18.8%	23.6%
9	★授業後に復習をしている。	2.7	2.9	11.9%	30.4%	33.0%	24.7%
10	★すぐに授業が受けられるように準備(教科書・プリントなど)している。	4.6	4.7	75.7%	18.3%	4.3%	1.8%
11	★授業に集中して取り組み、自分自身で考えようと努めている。	4.0	4.2	42.7%	39.3%	13.6%	4.3%
12	★授業でわからなかった点は質問している。	3.1	3.1	26.8%	25.1%	27.8%	20.3%

### 3) 重点目標Cに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 【DO】	評価点 29年度	評価点 28年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.6	4.6	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%
2	校内の美化および生徒の健康管理に注意し、安全な学校生活が送れるよう配慮している。	4.5	4.3	62.5%	29.2%	8.3%	0.0%
3	挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。	4.6	4.7	65.2%	30.4%	4.3%	0.0%
4	部活動を通して、生徒の学校生活を充実させ、社会性を身につけさせることができている。	3.9	3.4	30.4%	52.2%	13.0%	4.3%
5	授業時間を厳守し、生徒にも同様の指導をしている。	4.5	4.4	58.3%	37.5%	4.2%	0.0%

6	評価「1」「2」だけで100%であり、昨年度より、高い評価点に到達している。	次年度も学校行事と学校生活のより一層の充実を図り、生徒の満足度を更に上げていきたい。
7	80%以上の教員がアクティブラーニングやICTを活用し、授業を行っている。	より多くの教員が生徒の学習意欲をより一層引き上げるためにも内容の充実を図りたい。
8	昨年度よりも、予習をして授業に臨んでいる生徒が更に減少しており、目標点にも到達していない。	予習を行うことでの効果や見通しを感じさせ、多くの生徒が予習に取り組むように指導したい。
9	昨年度よりも復習をして、次の授業に臨んでいる生徒が減少しており、目標点にも到達していない。良好な状態とは言い難い。	復習を自ら進んで行う指導や、復習小テスト等を行うことで既習事項の確認やその定着を図りたい。
10	昨年度と同様に高い評価点を維持し、90%以上の生徒が、授業の準備を適切に行っている。	授業に対して前向きな姿勢が窺える。生徒の向学心を更に高められるように、授業マナーの指導と授業内容の充実を図りたい。
11	評価点が目標点に到達しており、80%以上の生徒が、授業に集中できている。	生徒が授業に対して自ら考えて、集中して学習できるよう、今後も授業内容に工夫を凝らしていきたい。
12	昨年度と同様に、目標点に到達していない。良好な状態とは言い難い。	授業中、休み時間や放課後など、生徒が質問の時間を確保できるように配慮したい。

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	90%以上の教員が、校内の保健・衛生面への配慮ができていると考えている。	今後も校内美化の徹底と清掃指導を丁寧に行っていきたい。また、手洗い・うがい・換気の指導も続けて行い、健康面への注意も促していきたい。
3	95%以上の教員が生徒の生活習慣の確立に努め、昨年度に引き続き、高い評価点に到達できている。	今後も挨拶の励行や時間厳守を遵守させ、基本的な生活習慣が崩れることのないように、生徒一人ひとりに目を配りながら対応していきたい。
4	目標点には到達できていないが、昨年度より数値が上昇している。	指導体制や活動状況などの確認や見直しを行い、部活動の更なる活性化を図る必要がある。
5	95%以上の教員が、時間を大切にす姿勢を生徒に示すことができている。	時間を厳守することは社会人として最も大切なことであり、今後も努力を続けていきたい。

6	生徒の問題行動に対して組織的に対応できている。	4.2	4.3	54.2%	29.2%	12.5%	4.2%
7	生徒指導は『教員全員で』という意識を持ち、情報の共有を適切に行っている。	3.8	4.2	41.7%	33.3%	12.5%	12.5%

#### 4) 重点目標Dに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 【DO】	評価点 29年度	評価点 28年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.6	4.6	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%
2	本学園の施設・設備は満足できるものであると思う。	4.0	4.4	41.7%	41.7%	12.5%	4.2%
3	健康・安全に対する意識を高めるよう、機会をとらえて情報を提供している。	4.1	4.5	41.7%	41.7%	16.7%	0.0%
4	進路指導が計画的に行われており、進路希望を実現しようとする意識を高めている。	4.3	3.9	41.7%	54.2%	0.0%	4.2%
5	生徒の進路選択に役立つように適切な情報の提供や資料作成に努めている。	4.4	3.9	45.8%	50.0%	4.2%	0.0%
6	必要に応じて予習・復習・提出物の状態を把握し、指導している。	4.5	4.4	62.5%	33.3%	4.2%	0.0%
7	提出物・小テストを通じて、各生徒の課題を学年で共有し、解決につなげている。	4.1	3.9	41.7%	45.8%	8.3%	4.2%
8	生徒一人ひとりの到達度に関して、適切な評価基準に基づく評価が行われている。	4.3	4.1	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%
9	授業研究を十分にしている。	4.1	4.3	45.8%	37.5%	12.5%	4.2%

6	昨年度と同様に、80%以上の教員が問題行動に対して組織的に対応できている。	生徒の健全な成長という目標の下で教員間の結束・連携のより一層の強化を図りたい。問題そのものの指導のみならず、機会ある毎に全生徒への啓発も行っていきたい。
7	評価「3」「4」の回答が25%もある。評価点が昨年度より0.4ポイント下がり目標点に到達できていない。	次年度は、学年所属教員間、そして全教員での連携の下で、情報の共有を適切に行うことで、全教員が生徒指導に取り組めるようにしたい。

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	評価点が昨年度より0.4ポイント下がっているが、80%以上の教員が、本学園の施設・設備に満足をしている。	次年度も引き続き、施設・設備の有効な活用方法を模索し続けていきたい。
3	評価点が昨年度より0.4ポイント下がったが、目標点に到達している。	養護教諭による保健便りの発行など、健康や安全に関する情報提供を今後も適宜行い、生徒の意識向上に繋げていきたい。
4	95%以上の教員が、生徒の希望を実現させようとしている。	高校が開設され、進路指導の重要性がより一層高まっており、生徒の希望を実現させるべく、学校全体で取り組んでいきたい。
5	95%以上の教員が、進路指導に対する意識を高めている。	次年度はより具体的な進路の資料提示、進路指導 HR や進路説明会等の機会を多く持つことで、生徒の進路選択の可能性を拓けていきたい。
6	昨年度より更に改善が見られ、評価「1」の割合が増加している。	課題等の確認は各生徒の理解度・習得状況の把握の重要な機会であり、今後も個々の機会を一層大切にしたい。
7	評価点が昨年度より0.2ポイント上がり、目標点に到達している。改善が図られている。	各生徒の課題を把握・共有し、その解決に向けて組織的に取り組めるように、より良い指導体制を築くべく努めたい。
8	評価点は昨年度よりも上昇しているが、評価「1」の割合が減少している。	人を評価する立場にある者として慎重さをもって、適切な評価を行い、その後の生徒の成長に繋げてもらえるように声掛け等も行っていきたい。
9	昨年度よりも評価「1」の割合が減少し、評価「3」「4」の回答が増加している。	様々な取り組みの中で多忙ではあるが、互いに思いやりを持って勤務し、全教員が授業を一番大切にできるゆとりをつくり出せるように努めたい。

10	★予習をしてから授業に臨んでいる。	3.2	3.6	31.2%	26.4%	18.8%	23.6%
11	★授業後に復習をしている。	2.7	2.9	11.9%	30.4%	33.0%	24.7%
12	★すぐに授業が受けられるように準備（教科書・プリントなど）している。	4.6	4.7	75.7%	18.3%	4.3%	1.8%
13	★授業に集中して取り組み、自分自身で考えようと努めている。	4.0	4.2	42.7%	39.3%	13.6%	4.3%
14	★授業でわからなかった点は質問している。	3.1	3.1	26.8%	25.1%	27.8%	20.3%
15	★授業の開始、終了時間は定刻通りである。	4.5	4.5	70.2%	22.2%	5.5%	2.1%
16	★授業中の説明の声は十分に聞こえている。	4.7	4.7	83.8%	11.7%	3.2%	1.3%
17	★先生の説明はわかりやすい。	4.3	4.2	58.6%	29.2%	8.5%	3.7%
18	★板書・プリントなどは工夫されている。	4.3	4.2	55.1%	32.0%	9.2%	3.7%
19	★先生の熱意が感じられる授業である。	4.4	4.3	64.0%	26.1%	7.1%	2.9%
20	★興味・関心がわき、もっと学びたくなるような授業である。	3.9	3.7	40.7%	35.2%	16.8%	7.3%
21	★先生は生徒の質問を大切にしている。	4.4	4.3	65.6%	23.2%	7.8%	3.3%
22	★授業の進む速さは理解するのにちょうどよい速さである。	4.2	4.1	52.5%	31.8%	11.4%	4.3%

10	昨年度よりも予習をして授業に臨んでいる生徒が減少しており、目標点にも到達していない。	予習を行うことでの効果や見通しを感じさせ、多くの生徒が予習に取り組むように指導したい。
11	昨年度よりも復習をして次の授業に臨んでいる生徒が減少しており、目標点にも到達していない。良好な状態とは言い難い。	復習を自ら進んで行う指導や、復習小テスト等を行うことで既習事項の確認やその定着を図りたい。
12	昨年度と同様に高い評価点を維持し、90%以上の生徒が授業の準備を適切に行えている。	授業に対して前向きな姿勢が窺える。生徒の向学心を更に高められるように、授業マナーの指導と授業内容の充実を図りたい。
13	評価点が目標点に到達しており、80%以上の生徒が授業に集中できている。	生徒が授業に対して自ら考えて、集中して学習できるよう、今後も授業内容に工夫を凝らしていきたい。
14	昨年度と同様に、目標点にも到達していない。良好な状態とは言い難い。	授業中、休み時間や放課後など、生徒が質問の時間を確保できるように配慮したい。
15	90%以上の教員が、授業の開始時刻・終了時刻を守っている。	時間厳守は秩序ある学校生活のベースであり、引き続き、この良好な状態を保つべく努力したい。
16	95%以上の教員が、自身の声で授業内容の伝達を行えている。	教師として当然のことではあるが、引き続き、授業内容に熱を込めてしっかりと伝える努力をしていきたい。
17	評価点が0.1ポイントずつ増加しており、生徒が現在の教員の説明で授業内容を理解できている。	生徒全員が分かる授業を目指し、更に研鑽を積み、生徒の発達段階に応じた、より良い授業を行っていきたい。
18	昨年度と同様に85%以上の生徒が、授業における教員側の工夫を感じ取っている。	引き続き、より多くの生徒に学ぶ楽しさ、知る喜びを感じてもらえる工夫を凝らしていきたい。
19	90%以上の生徒が、授業にかける教師の熱意を感じている。	引き続き、授業中のより良い緊張感のある雰囲気大切に、熱意ある授業を心がけたい。
20	75%以上の生徒が興味・関心を感じながら授業に参加できている。	より多くの生徒が学習に意欲を持てるように、授業の更なる工夫を行うと同時に生徒個々が抱える問題にもしっかりと目を向けたい。
21	昨年度よりも評価点が更に上昇し、90%近くの生徒が、質問への対応に満足している。	引き続き、適切な形で質問を受け、答えられるように、授業中や放課後などで時間を設定するようにしたい。
22	昨年度よりも評価点の割合が増加しており、85%近くの生徒が、授業の進度を適切であると感じている。	習熟度別クラス編成の成果と考えられ、引き続き、生徒の習熟段階に応じた授業展開を工夫していきたい。

5) 重点目標Eに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 <b>【DO】</b>	評価点 29年度	評価点 28年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	<b>4.6</b>	4.6	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%
2	防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める努力ができています。	<b>4.4</b>	4.6	45.8%	50.0%	4.2%	0.0%
3	生徒の校内安全(不審者対応・事故発生時の対応等)について何をすべきかを認識している。	<b>4.4</b>	4.2	50.0%	45.8%	4.2%	0.0%
4	生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている。	<b>4.5</b>	4.5	54.2%	41.7%	4.2%	0.0%
5	保護者への連絡や情報公開を適切に行っている。	<b>4.2</b>	4.5	41.7%	45.8%	12.5%	0.0%
6	学校見学などを通して、情報公開のための努力がなされている。	<b>4.7</b>	4.7	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
7	学校行事に際して、近隣住民への説明が十分になされている。	<b>3.6</b>	4.3	20.8%	50.0%	25.0%	4.2%
8	ホームページ等を活用し、教育活動や生徒の学校生活についての情報発信に努めている。	<b>3.9</b>	4.3	45.8%	29.2%	20.8%	4.2%
9	個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている。	<b>4.5</b>	4.7	54.2%	45.8%	0.0%	0.0%
10	入学者数確保のための諸活動に積極的に取り組んでいる。	<b>4.2</b>	4.4	50.0%	37.5%	8.3%	4.2%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	95%以上の教員が、生徒の防災意識の向上に寄与できていると実感している。	現在の日本では、震災遭遇の可能性の想定は必須であり、他の災害への対応も含めて、安全を確保する行動をとれるように確実に指導・訓練を行っていききたい。
3	95%以上の教員が、非常時の対応について適切な認識を持つことができている。	不審者対応研修、救命法講習などでの学びを、現場での素早い判断・行動として適切に活かせるようにしていきたい。
4	今年度も高い評価点を維持し続けているが、昨年度よりも評価「1」の割合が減少している。	学級担任のみならず所属学年の教員間で情報を共有し、適切な連絡や対応を保護者に行っていけるように注意していきたい。
5	昨年度よりも評価点の割合が減少したが、85%以上の教員が、保護者との連携を適切にとるべく努力している。	保護者と教員が協力し合って、生徒の指導に当たることができるように努力していきたい。
6	評価「1」「2」だけで100%であり、非常に良好な状態である。	学校見学会や入試説明会などの個々の機会を有効に活用して、本校の教育活動について周知を図る努力を続けたい。
7	評価点が、昨年度より0.7ポイントも下がり、目標点に到達できていないが、体育祭の外部開催の影響も大きかったのかも知れない。評価「3」「4」の回答が増加している。	今後も学校と地域との連携強化に努め、近隣の方々の理解の下で円滑に教育活動を行えるように努めたい。
8	昨年度よりも評価「1」「2」の割合が減少し、評価「3」「4」の回答が増加している。	教科ブログや学年通信の発行なども含めて、引き続き積極的な情報発信を心がけ、本校の良さを伝えていきたい。
9	評価「1」「2」だけで100%である。高い評価点は維持しているが、昨年度よりも評価「1」の割合が減少している。	個人情報の扱いには十分な注意を払い、教育活動に支障を来たすことがないように努めたい。
10	85%以上の教員が、入試関連の広報活動に関心を持ち、行動していることが窺える。	私学として特色ある学校づくりに勤しみ、少子化の進む中でも、より多くの生徒に入学を志望してもらえるように可能な努力を続けていきたい。

➤ 総括 —重点目標毎の概況・反省と今後の展望—

<p>A (人間教育・仏教教育) 人としての誠実な在り方の 追求と周囲との信頼関係の 構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、すべて目標点に到達しており、良好な評価となっている。</li> <li>・人権教育に関しては、教員間で意見交換を行い、今後も様々な人権問題について学び、生徒のより良い人権意識の向上に努めたい。</li> <li>・いじめ問題に関しては、「いじめ防止基本方針」に基づき、引き続き、いじめ問題の予防・撲滅に努めたい。</li> </ul>
<p>B (社会適応能力の育成) 生徒一人ひとりの創造力 の育成と集団生活の中で 協力する姿勢を醸成する ための教育活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、教員の自己評価は昨年度よりも評価点は上がっているが、生徒の授業評価は4項目が下がり、目標点未到達の項目が複数ある。次年度に向けて、より丁寧に、且つ謙虚に見直しを行い、向上を図りたい。</li> <li>・手帳や電子機器を利用して日々の計画・実行・反省の指導などを行い、自己管理能力のある生徒の育成を期したい。</li> </ul>
<p>C (生活指導) 挨拶の励行・校内の美化・ 規律正しい生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、評価結果から概ね良好な状態と言えるが、今後もより一層の向上を図りたい。</li> <li>・基本的な生活習慣の確立の指導は、社会人育成の場として確実に全うしなければならない点である。また、部活動を通して、学校生活の充実と社会性を身につけさせる指導に努めたい。</li> <li>・保護者との連携については、クラス保護者会や保護者個別面談を通じて情報交換を行い、一層の緊密化を図り、共に生徒の健やかな成長をサポートするというスタンスを保ちつつ、信頼関係を築き合えるように努めたい。</li> </ul>
<p>D (学習指導・進路指導) 生徒の夢・希望を実現する ための進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、教員の自己評価はすべて目標点に到達できており、良好な評価となっている。</li> <li>・健康管理の力も適切に身につけられるように、引き続き、情報を提供するなど、病気やケガに対する注意喚起を行っていききたい。</li> <li>・多忙中であっても、全教員が教科指導にもっと専念でき、指導力の向上を図れる環境をつくりたい。</li> <li>・進路指導に関して、学校独自の進路指導計画に則って全教員が指導に当たれるようにし、学年間での取り組みのばらつきの解消を図り、各生徒の個性や能力に応じた進路指導を行っていききたい。</li> <li>・アクティブ・ラーニングの研修や大学生による進路講話等、有益な取り組みを今後も継続していききたい。</li> </ul>
<p>E (広報活動・保護者対応) 広く教育活動を公開し、保 護者の信頼と期待に応え る学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、評価結果から概ね良好な状態と言えるが、項目7・8の情報発信の点についての評価が下がり、目標点未到達となっている。次年度以降も更なる努力を続け、保護者と社会の信頼と期待に応え得る学校であり続けたい。</li> </ul>

## 平成29年度 学校関係者評価

四天王寺学園高等学校  
四天王寺学園中学校  
後援会会長 辻尾真弓

### A（人間教育・仏教教育）について

項目2、3について、常に思いやりの心を持って相手に接することや、互いに人権を尊重し合うことの大切さをしっかりと学ぶことで、子供たちは友達同士や先輩、後輩との適切な人間関係、先生方をはじめとする学校関係者の方々との信頼関係を築き、充実した学園生活を送ることが出来ると思います。昨年度同様、高い評価点となっていることから、指導が徹底されていることが確認できました。多感な年頃であり、社会人としての準備段階にもあるこの時期の子供達の人格形成を担う先生方には、常に模範的な存在であっていただくとともに、今後とも引き続き、きめ細やかな教育、適切な指導や配慮をお願いしたいと思います。

また本校の教育の基本である「建学の精神」が、これから新しく着任して来られる先生方も含め、より深く浸透することを希望いたします。

### B（社会適応能力の育成）について

項目5、6について、様々な学校行事において子供たちの自主性を重んじながら、集団として充実した活動を行うための支援体制が整っていることが分かりました。また教員間における連携が昨年度以上に深まっていることは大変望ましく、子供たちに対する温度差のない指導がなされていることが確認できました。今後は教員間のみならず、学園に携わる様々な部署間の連携強化にも力を注いでいただき、より円滑な学園運営に努めていただきたいと思います。

また昨年同様、「予習、復習、質問」の3項目について、子供たちの評価が目標点に対してかなり低いのが目立ちます。このような結果が続く原因について検討し、必要な言葉かけや的確なアドバイスを行っていただくとともに、子供たちのモチベーションを高めるような仕掛けや仕組みづくりに手腕を駆使していただきたいと思います。

### C（生活指導）について

項目4について、部活動の更なる活性化は、開校して間もない本校の課題の1つであると思います。学年の枠を超えた仲間づくりや、目標に向かって努力を重ね、忍耐力や精神力を鍛える場として、部活動は将来子供たちが自立して社会生活を送っていくために必要な様々な経験をすることの出来る貴重な機会です。引き続き、部活動の意義、目的、重要性を子供たちに伝え、部活動への参加を積極的に促していくとともに、子供たちの興味関心や得意分野を引き出せるよう、可能な限り部活動の種類や活動範囲を拡大することも必要であると考えます。

項目7について、生徒指導に必要な情報は適宜共有化を図っていただき、常に「ぶれ」のない一貫した内容で、継続的に指導が行える体制を整えていただくことを希望いたします。

#### D（学習指導・進路指導）について

項目 4、5 の進路指導に関して、昨年度より先生方の意識や指導力が向上していることが分かります。中学校においては、引き続き高校受験で外部進学する生徒に対して、それぞれの進学希望先に関する速やかな情報提供や、柔軟かつ的確な進路指導および学習指導を行っていただきたいと思います。また高等学校においては、本校初めての大学受験を 2 年後に迎える子供と保護者が、安心して受験に臨めるよう手厚い指導をお願いしたいと思います。更に 3 年後に導入される新しい大学受験制度についても、各教科の変更点に対応した受験対策や様々な改正点に関する最新情報の提供等を強く希望いたします。

項目 9 については評価にばらつきがありますが、学校生活の中で最も大切な授業に備え、先生方が十分な準備を行い、どのクラスにおいても子供たちの興味関心や学習意欲を引き出す良質な授業が行われるよう、先生方の業務分担や担当学年の見直し、経験年数に応じて教材研究へのフォロー等、学園全体として対策を講じていただきたいと思います。

#### E（広報活動・保護者対応）について

項目 4、5、9 の結果から、学園内での指導内容に関する保護者への連絡や報告、必要な情報公開が迅速に行われていること、個人情報適切に取り扱われていることが確認できました。子供たちの健全な成長と安定した学園生活実現のために、今後とも学園と保護者とが連携をとって必要な情報交換を適宜行い、より深い信頼関係を築いていくことを望みます。

また常に近隣住民の皆様への配慮や感謝の心を忘れることなく、本校の教育理念や教育活動、特色や魅力をホームページ等で広く PR することで、愛され親しまれる学園づくりに力を尽くしていただきたいと思います。

発行 平成30年6月25日  
四天王寺学園高等学校  
四天王寺学園中学校

